

経営比較分析表（令和2年度決算）

岐阜県 関市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	農業集落排水	F1	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家賃料金(円)
-	74.22	9.96	74.51	2,365

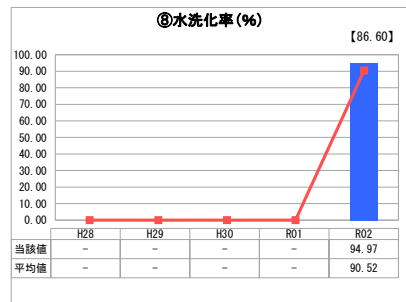
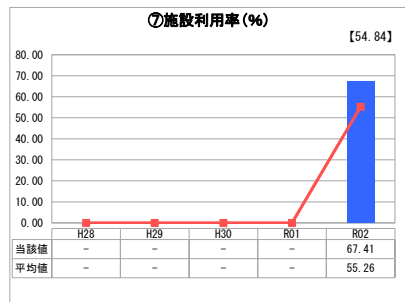
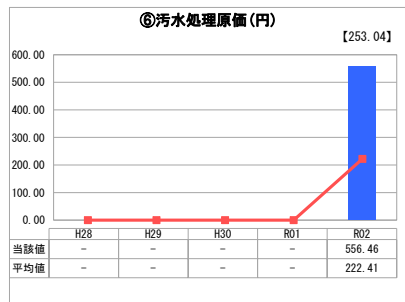
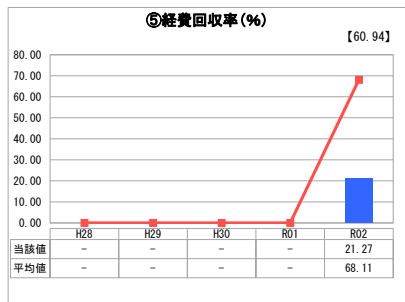
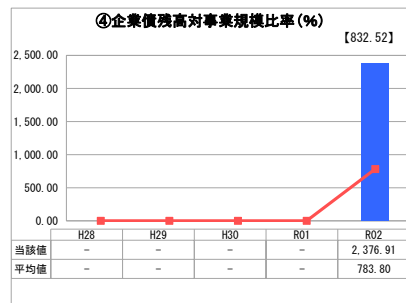
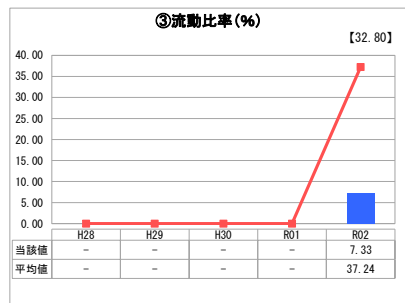
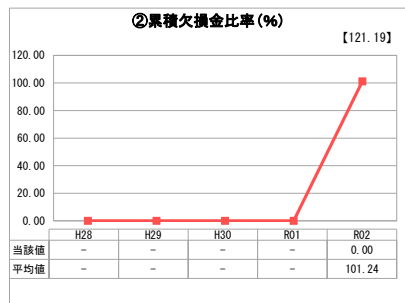
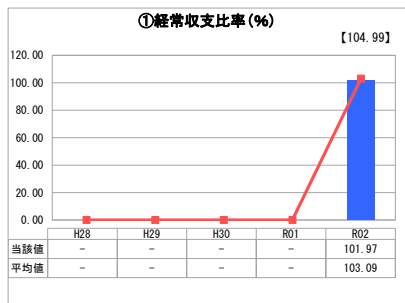
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
87,245	472.33	184.71
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
8,644	15.55	555.88

グラフ凡例

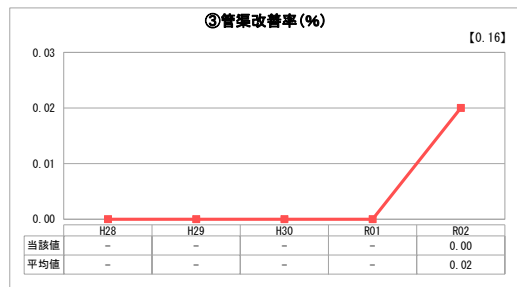
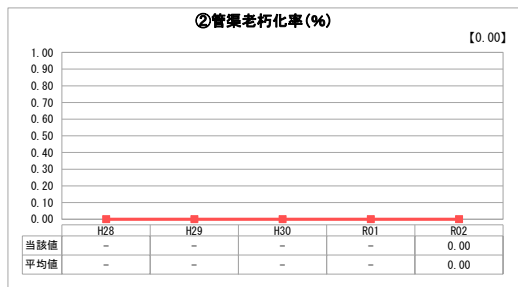
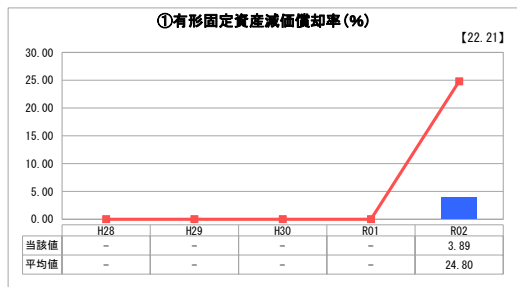
- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）

【】 令和2年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

本市農業集落排水事業は令和2年度から公営企業会計を適用しました。水洗化率は94%を達成し全国平均・類似団体平均を上回っています。また、経常収支比率は101%と、企業債残高対事業規模比率も全国平均・類似団体の平均値を下回っています。企業債残高が事業規模に比べて多いのは、事業規模に比べて処理区が多いことが原因です。また、経費回収率・汚水処理原価は、全国平均・類似団体平均を下回っています。これは、施設規模が大きく減価償却費が多額に計上されるのに比べると、集落排水利用収入が少ないからです。また、流動比率が低いのは、不足額を公共下水道事業からの資金融通で運営しているためです。

2. 老朽化の状況について

農業集落排水事業は、昭和61年の供用開始であるため、比較的新しくまだ老朽化の問題はありません。管渠・設備の老朽化は、個々の管渠・設備の健全性を確認しつつ、施設の延命を図るとともにライフサイクルコストの縮減に努めて行きます。

全体総括

多額な減価償却費に対する農業集落排水利用料の確保については、上下水道事業経営審議会で今後の農業集落排水事業のあり方を踏まえて検討を進めていきます。また、老朽化については、管渠・設備の健全性を確認しながら、施設の延命を図るとともにライフサイクルコストの縮減に努めて行きます。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。